

雪国の植物 ユキツバキ 16

## 三体雄蕊(おしべ)の形態をもつ花

石 沢 進

ユキツバキの花は詳しく調べると、個体毎に変化に富んでいる。花の中心に位置する雌しべや雄しべにも変化がみられる。

ユキツバキの雌しべの柱頭は、普通3裂するものが多いが、しばしば5裂するものもある。それに対してヤブツバキは普通3裂している。このことは、ユキツバキの雌しべの子房が普通3室であるが、しばしば5室に分かれることがあることと関連し、津山氏によってすでに指摘されている〔植研究雑39(2):44〕。

ユキツバキの雄しべについては、一花中の数が30-130本あり、平均で70本である。ヤブツバキはそれより多く、100本以上のものが多いことを確かめている。また、ヤブツバキの雄しべの基部が長く合着して筒状になっているのに、ユキツバキはその筒状の部分が短く、雄しべが1本1本花の中に分かれているように見える。詳しく観察すると、ユキツバキの外側に位置する雄しべの基部が合着している。

下の写真に示したユキツバキの個体は、雄しべが3つの部分に分かれ、いわゆる3体雄蕊の形態を示している。オトギリソウ科のキンシバイのような雄しべの形態に似ていて興味深い。

3つに分かれた雄しべと花卉の位置関係をみると、雄しべの外側に3枚の大きな花卉があり、花卉と花卉の間にそれぞれ3群の雄しべが位置しているように見える。つまり、花卉と3体の雄蕊とはほぼ互生関係になっているようである。雌しべ3裂していることから、花成部分が3数性を示している花の一例とも考えることができる。他の分類群との花部の形態を比較検討する上で興味深い。

野生のユキツバキも、個体により様々な花が咲いている。変わった花の変異にお気づきの方は、その情報を寄せて頂けたら幸いである。

